

あおぞら

発行:愛知県被災者支援センター
住所:名古屋市東区泉 1-13-34
名建協 2 階
TEL:052-971-2030
FAX:052-971-2050
開館:月曜～金曜 10 時～17 時



JR 小高駅:

地元に戻った人は 6600 人程と聞いていますが、駅前から暫く町の先まで眺めていても、人影は見えませんでした。

震災遺構浪江町立請戸小学校:

津波は校舎の 2 階にまで達していました。児童 93 名と教職員は全員無事に避難出来たようです。爆発事故を起こした東京電力福島第一原発からは直線で 8km ほど北にあります。〈写真提供:伊藤廣昭さん〉

募 集 中



- ☆『あおぞら』編集委員:「私のお気に入りスポット」や「私のおすすめの一冊」、「我が家の自慢のレシピ」等の取材・投稿
- ☆新聞スクラップのボランティア:定期便に同封の東北の地元新聞(『河北新報』・『福島民報』)のスクラップ作業
- ☆表紙の絵・写真:お子さんの絵、または趣味の写真など

新型コロナウイルス感染症が心配な時の看護師による
一般相談窓口 愛知県感染症対策局感染症対策課
電話:052-954-6272 (9:00～17:30 土・日・祝も毎日)

愛知県・新型コロナウイルス感染症「県民相談総合窓口」
(コールセンター)
電話:052-954-7453 (9:00～17:00 土・日・祝も毎日)

《もくじ》

- P1.表紙写真:震災遺構他
- P2.オンライン・あおぞらカフェ「さらさらミントパウダー」
- P3.インタビュー:トリミングサロン「Vivid」開店
- P4.奨学金制度紹介「まなべる基金」
- P5.寄稿/淑徳大なごやであそび隊
ウクライナ支援街頭募金、
日本ウクライナ文化協会・避難者「日本語教室」
- P6.寄稿「私の引き揚げ体験記」
- P7.「おすすめの一冊」①、②
- P8.イベント情報、さっちゃんのレシピ、編集後記

オンライン・あおぞらカフェ「さらさらミントパウダーを作ろう！」

お子さんたちの夏休み中のお出かけの予定や、都合で日程が 8/21(日)に変更になったこともあり参加者は少人数でしたが、ゆったりとした時間の中で、参加された皆さんは、「交流ができて楽しかった」、「アロマが楽しく学べた」、「オンラインで参加できてよかった」というご意見でした。

<アンケートから>

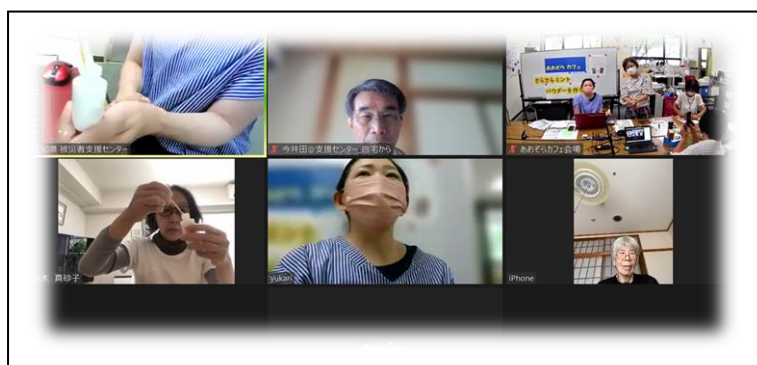
○精油はいくつか持っていますが、あまり活用できていないので、皆さんのお話がとても参考になりました。スイートマジョラムを調べたり、鈴木さんのお話されていた「かすがモリモリ村リフレッシュ館」(*岐阜県・揖斐川町 QRコード参照)も興味があります。今日作ったパウダーは、仕事のカバンに入れ、外回りの時に使おうと思います。誘っていただいていたありがとうございました。



○オンラインあおぞらカフェお疲れ様でした。いつもセンターの皆さん、鈴木さんには癒しの時間をいただき、感謝です。夏の疲れた身体を、精油の香りが癒してくれました。楽しいおしゃべりの中で色々な情報をいただき、ありがとうございます。



○久しぶりに喋ったので、楽しかったです。フワフワ(さらさら)パウダーもうまく出来て、楽しい時間でした。こんな時間がとても大事で、また楽しみにして居ります。コロナでどこへも出かけられないので、考えることは「明日も朝日を見る事が出来るかな?」と暗い気持ちになります。楽しい事を出来るだけやって欲しいです。



「ハイ、出来上がりました！」



インタビュー//トリミングサロン「Vivid」トリマー関根真奈美さん

8月22日、関根真奈美さん(名古屋市西区 避難元:郡山市)の「トリミングサロン Vivid」を訪問して、お話を伺いました。

Q: トリミングサロンを持つきっかけは?

A: 震災前に福島のペットショップでトリマーとして3年間、メインで仕事をしていました。震災がなければ、福島で自分のお店を持つつもりでした。震災と一緒に過ごした犬 vivi ちゃんが亡くなってからすごく悩みました。保護犬の預かりボランティアで出会ったマサル君(腫瘍ができていて手術など手を尽くしたが命を救えなかった)や純太君と会い、「やっぱり犬が好きなんだ」と思いました。

それで自宅の駐車場にトリミングサロンを増築し、今年の4月にオープンすることができました。

Q: いつもどんな気持ちで?

A: 「自分だったらこんなトリマーさんに預けたい」と思えるようなトリマーを目指しています。自分の心が安定していないと、トリミングされる犬は安心できません。犬のカットをする場合は、最初に

全身を見ます。関節が弱い子や皮膚が丈夫じゃない子など、いろいろいますから。肌が弱かったり荒れている場合は、合うシャンプーを使用して、その子に合うようにトリミングします。犬は言葉が話せないので、不調を飼い主やトリマーが「トリミングの時に見つけてやらなくっちゃ」と、預かった犬の状態を記入する独自の「トリミングチェックシート」を見せてくださいました。

Q: サロンの開設は?

A: 開設して5か月目(取材時)に入ります。最初はチラシをポスティングしたり、犬を散歩させている人に名刺を渡したりしました。今ではリピーターの方、「口コミ」で来てくださる方もできました。

それぞれの犬ごとに誠意を持って丁寧に向き合い、この仕事を長く続けられるようにしたいです。

Q: ペットホテルも?

A: ペットホテルとしては二世帯限定でお預かりしています。頭数が多いと丁寧に向き合えなくなり、ワンちゃんがストレスになってしまうからです。お盆も頑張って預かりました。飼い主さんにその日の状態をお知らせするために、写真や動画を送ります。飼い主さんに安心していただきたいからです。飼い主さんがハッピーだったら、犬は幸せです。その手助けができるといいな〜と。

Q: 犬用の歯ブラシ?

A: 犬も歯が悪くなると血液から体中に影響し、癌などの病気の原因になるので、歯の手入れは大切です。

Q: ご家族は?

A: 夫婦と子どもが2人。犬2匹、猫2匹は、全部保護犬・保護猫です。保護されるまで殆どが劣悪な環境で生活している事が多いので、人に懐かないのです。この犬・悟空(左写真)は引き取られる前は狭い環境で生活していたので、オシッコの仕方が今も下手です。

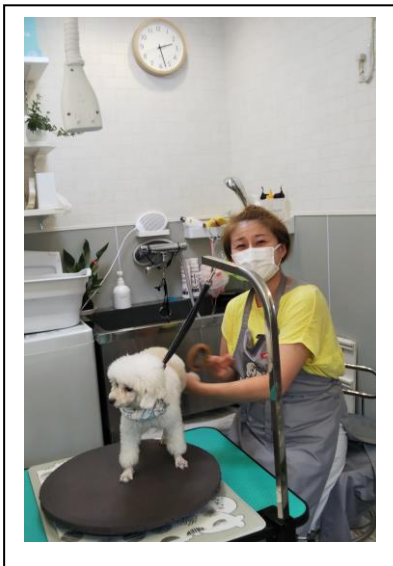
◎インタビューを終えて――

この仕事を始める前には勤めておられた関

根さんは、自宅でトリマーをするようになって、学校から帰宅したお子さんに、初めて「お帰り!」と言えるようになりました、と嬉しそうでした。大切な事は犬も人間も同じで、相手の立場に立って考える事。それには“自分のメンテナンスも大事”と話されました。つまり

自分に余裕がなくなれば相手の立場に立って考える余裕が無くなるので“犬の不調などを見落としてしまう”という事なのでしょう。

(編集委員:富田祥子)



奨学金制度紹介//「まなべる基金」(第12期) 募集より抜粋【応募期限 10/28(金)必着】

＜東日本大震災復興支援財団＞



はじめに：「まなべる基金」は、東日本大震災の影響により住居の修繕や再建などのため、経済的な負担が増加し、進学・就学に困難がある高校生を支援することを目的とした給付型（返還不要）の奨学金制度です。困難な状況の中でも、学ぶことを諦めない高校生を支援するため実施するものです。

今回の第12期でも、昨年度の第11期と同様に、新型コロナウイルス感染症による経済的な影響を踏まえて、大幅な減収が見込まれるご家庭にも配慮した特別措置を継続しています。その他にも、近況における物価上昇や経済情勢等も勘案し、現行の給付額を見直し、3年制高校等の場合、年額1万円増の年額20万円とするなど、今後も多くの生徒を支援できる募集内容を継続していきます。

奨学金の対象者：東日本大震災で被災した生徒で、2023年4月1日時点で高校等、またはその他学校に在籍していることが見込まれる生徒 ※詳しい応募資格は必ず募集要項をご確認ください。

募集人数：100名程度

奨学金の種類：給付型奨学金 ※返還不要。

＜＊奨学金の金額、給付対象期間、選考・奨学生の決定については、募集要項参照＞

応募資格の概要：以下の(1)～(5)の応募資格の全てを満たす方

(1) 生年月日：2003年4月以降に生まれ、2023年4月1日時点で高等学校など、またはその他学校に在籍していることが見込まれる生徒。

(2) 東日本大震災発生時の居住地

東日本大震災発生時に岩手県・宮城県・福島県に居住していた生徒で、かつ、その生徒の家庭で主に家計を支える方も岩手県・宮城県・福島県に居住していたこと。

(3) 被災をしていることが証明できる

東日本大震災発生時に岩手県・宮城県・福島県で被災したことを、応募者本人および保護者の自宅の罹災証明書または被災証明書を下記で確認の上、提出により証明できる。

提出書類	発生時の被災地
罹災証明書（半壊以上）	岩手県・宮城県・福島県
罹災証明書（一部損壊）	福島県 ■追加必要書類（下記※参照）提出が必要
被災証明書	岩手県・宮城県・福島県 ■追加必要書類（下記※参照）提出が必要

※「被災証明書」提出の場合は以下のいずれかの事象に該当し、追加必要書類で証明できること

- ①福島第一原発事故の影響で避難し、二重生活をしている。
- ②福島第一原発事故の影響で一家避難し、避難先で住居費を自己負担している。
- ③福島第一原発事故の影響で避難し、避難先から震災時に居住していた市町村への帰還している。

＜＊（4）所得の合計基準については、募集要項参照＞

(5) 他の奨学金との重複受給がないこと

問い合わせ先：公益財団法人東日本大震災復興支援財団 「まなべる基金」 事務局
電話：0120-935-459(受付時間：平日 12:00～17:00) **Email：**manaberukikin@minnade-ganbaro.jp
募集要項：詳細はホームページ募集要項をご覧ください。
<http://minnade-ganbaro.jp/manaberukikin>

＊ ＊ ＊ ご関心のある方は、お早めに上記ホームページ・募集要項をご覧ください。

ずっと東日本大震災避難者の子どもたちの支援を続けてくださっている愛知淑徳大学 CCC(コミュニティ・コラボレーションセンター)・「なごやであそび隊」の学生たちの取組みを報告していただきました。

ロシアとウクライナのニュースが流れたのが、2022年2月24日。あれから、毎日のように情報が報道されます。半年以上、経ってしまいました。「私たちに、何が、できるのか？」

CCCでは、10年以上、チェルノブイリ救援・中部様とかかわりを持たせていただけてきました。チェルノブイリの子どもたちに、クリスマスカードを届ける事業に、学生たちがたくさん参加させていただけてきました。東日本大震災の後、福島の子供たちへもクリスマスカードをお預けして、届けていただけてきました。そんな中で、ウクライナのみなさん、子どもたちへの物資支援



や寄付の案内が届きました。「私たちが、すぐに動ける、向こう側の姿が見える活動だね」と、学生団体「なごやであそび隊」の学生たちとは話し合い、毎月の募金活動を始めました。

初回は7月17日、名古屋市栄で7人の学生がおこないました。道行く方々に、「ウクライナの子供たちに募金、お願いします！」と絶えず声をかけながら。この日は、19,403円が集まりました。これから、毎月1回、栄での募金活動をおこなっていく予定です。

<参加した学生の声>

「ウクライナのみなさん・子どもたちの力に少しでもなれたら」という思いで、今回募金活動に参加しました。初めての募金活動で緊張しましたが、積極的に声掛けを行うことでたくさんの方に募金をして頂きました。今後も募金活動を続けて、少しでも早く安心して生活できる日が来ることを願っています」(グレープ)

どうか、少しでも早く、ウクライナの子供たちが安心して過ごせる日がきますように。

(CCC 秋田)

ウクライナからの避難者の支援

日本ウクライナ文化協会(JUCA)「日本語教室」第一期終了 修了生 18名



ウクライナからの避難者のための日本語教室(JUCA主催)は、5月から始まり8月まで週に3回、一日4時間のハードスケジュールでしたが、第一期が終了しました(教室は愛知県被災者支援センターと同じ建物内で、時折声が聞こえてきます)。慣れない日本の暑さの中、「日本人と友達になりたい

いから」とか「早く日本で仕事を見つけないから」と、皆さんとても熱心に取り組まれ、大きな成果を上げられたようです。引き続き、第二期の日本語教室が9月1日より始まり、就職やより上の日本語能力検定試験等を目指して、9名が受講されています。



寄稿//「私が生まれた頃、日本は戦争をしていた」

～私の北朝鮮からの引き揚げ体験記～ (編集委員：富田祥子)



【なぜ北朝鮮？】

私は日本が戦争をしていた頃、中国との国境の近くの北朝鮮の茂山という所で生まれました。当時父はそこで発電所関係の仕事をしていました。旭化成の前身である日本窒素肥料が資源の豊富な北朝鮮に、工場やエネルギー確保の為に水力発電所を建設しました。当時は多くの日本人が、北朝鮮で働いていました。

【終戦 日本への引き揚げ・逃避行】

1945年8月15日を境に、その日本人たちは住んでいた地を追われ、一斉に日本に向けて引き揚げを始めました。私たちもその一員でした。父は現地招集で兵隊に行っていたので、残された母、1歳半の妹、3歳になったばかりの私、病弱な祖母の4人でした。母はリュックを背負って、妹をおんぶ用の帯で胸に括りつけていました。3歳だった私は、大人の後を着いて歩くしかありません。「現地の人に見つかれば殺されるから」と毎日毎日、山の中を逃げ隠れしながらの逃避行が始まりました。一日中歩いて水が流れている所が見つかり、そこで木の枝や落ち葉を拾って焚き火をして、山に生えている草を取って食べ、野宿をします。日が暮れると、動物の遠吠えのような不気味な声が聞こえ、四方八方の暗闇の中では動物の目が光っています。来る日も来る日も山の中を歩き、夜になったら草を探して食べ、動物除けに火を絶やさないように焚き火をしながら野宿をして、朝を待ちます。次の日もまた次の日も同じです。

【人間は「普通」じゃなくなり】

そのような日が続くと、人間は「普通」じゃなくなります。さっきまでいた子がいません。泳がせてあげると言っていて、親が自分の子どもを川に連れて行き、頭を押さえつけて殺します。次の日は別の子が。それを止める人もいません。[150円]で現地の人に売られる子も何人もいました。当時の150円がどれくらいの価値だったのかわかりません。食料と替えられた子もいました。

ある日、みんなが休憩していました。祖母が隊から遅れていたの、母は私と妹を其処に置いて祖母を迎えに行きました。暫くすると隊は出発して行き、私と妹は山の中に取り残されました。やがて日が暮れて辺りは真っ暗になりました。どれくらい時間が経過したのか、母と祖母が戻って来ました。妹は大声で泣いていました。母は後になって、「あの子の泣き声を頼りに真っ暗な山道を迷わずに戻って来た」と言っていました。私は泣きませんでした。やがて食べ物も無くなり、朝鮮の寒い冬がやってきました。飢餓と寒さと発疹チフスに感染して、毎日沢山の人が死にました。そして死んだ人は「三角山に捨てられ」ました。

【[38度線]を越えて】

次の年の夏が来て、[38度線]を越し、ようやく日本に行く船に乗れる事になりました。祖母は明日船に乗る、という日に息を引き取りました。きっと安心して、張りつめていた糸が切れたのだと思います。船を待っている時、私と妹の「髪の毛を切って、少しください」と母に頼む若い女性がいました。その人には私たちと同じくらいの子どもの2人いたそうですが、置いてきたそうです。日本に帰って「子どもを置いてきた」とは言えないので、「2人とも死んだ。髪の毛しか持って帰る事が出来なかった」と言う、との事でした。

【3歳の記憶】

当時3歳だった私は、引き揚げの時の事を鮮明に記憶しています。多分「普通」ではなかったの、記憶に残っているのだと思います。



【ウクライナの戦争】

今、ウクライナで戦争が起こっています。戦争は決して昔の事でもどこか遠い国の出来事でもありません。今、地球上で起っている事を、「自分事として考える事」が大切な時代なのではないでしょうか。

私のおすすめの一冊 第5回

①『義経』 司馬遼太郎（文春文庫）

NHK大河ドラマの『鎌倉殿の13人』の影響を受けて、この本が私の手に飛び込んできた。そもそも、私にとっては、鎌倉時代から江戸時代までの歴史がとても難しい。何故そうなるのかと疑問ばかり。この本を読み進めるうちに、次の事柄が「疑問」から「納得」に傾いて行くことになった。

1. 頼朝は京でなく、何故鎌倉で政権を立てたのか？
2. 鎌倉幕府に何故北条家が権力の中核にいるのか？
3. 頼朝と義経は兄弟なのに、何故戦ったのか？
4. 平家は何故瀬戸内海に逃げたのか？

ここにその全部を書く紙面を持たないので、次の一つだけ記すことにしよう。

「平家は何故瀬戸内海に逃げたのか？」

そもそも私が四国の徳島の生まれで、そこには平家の落人の祖谷のかずら橋などがあり、そこから「何故？」という疑問が発しています。

清盛の死後、義経と戦うことになった平家は、

さっさと京を捨て、西に向かう。最後の決戦の壇ノ浦の戦いでは、圧倒的に平家が勝つ予定だった。

海戦に強い大将の平知盛が、時間の経過で潮の流れが極端に変化する壇ノ浦の特徴を利用し、戦術を練ったはずだった。だが、義経は潮の流れを逆に利用して、まさかの勝利に至る。

平家は元々貿易、海戦を得意とし、神戸を本拠地としていたので、騎馬戦は得意だが海に疎い義経を瀬戸内海に誘ったのである。そもそも船を操ることができない義経は、海では勝負にならないはずであった。ここに知盛に油断があったのだろう。或いは、義経はやはり戦いの天才だったのだろうか。（編集委員：瀧川裕康）



②『リンドグレーンの戦争日記』（アストリッド・リンドグレーン著 石井登志子訳 岩波書店）



児童文学の『長くつ下のピッピ』などで知られるリンドグレーンが、作家デビュー以前に第二次世界大戦が勃発したその日から書き始めた『戦争日記』。それは、戦争中立国スウェーデンに住む女性が、ヨーロッパで始まった戦争について、17冊の手帖に新聞の切り抜きを貼るなど情報を収集、整理しながら戦局を見つめ、子育て中の家族の日常生活と共に綴っている。また旧ソ連の隣国フィンランドへの脅威に、市民に支援物資を送ったりもしている。

「1939年9月1日 ああ！今日、戦争が始まった。だれもがまったく信じられない思いだ。昨日の午後、ヴァーサ公園で私とエルサ・グランドル(友人)が座るそばで、子どもたちは走りまわったり、遊んだりしていた。二人して陽気に、軽くヒトラーのことを罵り、戦争にはならないだろうということで意見が一致した——そして、今日だ！ドイツは早朝ポーランドの町をいくつも爆撃し、いたるところから侵攻している。今まで、できるだけ買いだめをしないできたが、今日はココアを少々、紅茶も少々、石けんや他にもいくつかのものを少しだけ買った。恐ろしく重苦しい不安が何もかもに、そして誰の胸にもものしかかっている。ラジオは、一日中定期的に戦況報告を流している。兵役義務のある兵士が大勢召集されている。自家用車運転禁止令が公布された。神よ、凶器に打ちのめされた我らが惨めな地球をお救い下さい！」という始まりの日の記述。〔『リンドグレーンの戦争日記』〕私はこの本を、ロシア軍によるウクライナへの侵略戦争の前に読んでいた。読むたび重苦しい空気感を感じたが、それは「歴史」だった。

「ああ！今日、戦争が始まった」今のウクライナ侵攻となんと同じ状況、感覚だろう！戦争とはこのように始まるものなのか。私たち世界中が今、映像と共に「戦争」に立ち会っている。（編集委員：戸村京子）

【イベント情報】 *開催・内容等が変更になることがあります。詳しくはチラシでご確認ください。

開催日	イベント名	内容（主催など）	会場
10/2(日) 10:00~15:00	岩手県・宮城県気軽 にお茶飲み交流会	コロナに注意しておしゃべり、ハーブ コーナー、笑いヨガ、公園散策等。 主催: 気軽にお茶飲み交流会実行委	東海市しあわせ村 保健福祉センター 名鉄「聚楽園」下車
10/30(日) 11:00~15:00	お寺で交流相談会	内容:簡易甲状腺エコー検診、各種相談 会、念珠作り、アロマお香作り。 主催:愛知県被災者支援センター	・地下鉄「東別院駅」 4 番出口徒歩 5 分 ・市バス「東別院前」
12/17(土) ①11:00 開演 ②14:30 開演	ジャックと豆の木	《予告》劇団飛行船マスクプレイミュー ジカルを楽しんだ後、交流します(詳 しくは次回定期便同封のチラシ参照)。	日本特殊陶業市民会館 フォレストホール (名古屋市)

さっちゃんのレシピ 「季節の野菜のゼリー寄せ」

【材料】(2 人分):ゼラチン小さじ 2 杯半、コンソメスープの素 1 個、
ミニトマト 4 個、オクラ 3~4 本、枝豆適宜、水 300 cc

【作り方】

- ① ゼラチンに大さじ 3 弱の水を入れ、もどしておく(*300 ccの水とは別に用意)
- ② オクラは茹でて 1 mm の厚さに切る。枝豆は茹でてカラから出す。ミニトマトは縦に 4 等分に切る。
- ③ 水 300 cc にコンソメスープの素を入れ、火にかけて溶かす。
- ④ 火を止めた③に①を入れ、混ぜながらゼラチンをよく溶かす。
- ⑤ ④の荒熱を取り、少し大きめの器に 1/3 程入れ、②もそれぞれ 1/3 入れて、冷蔵庫で 20 分程度冷やして固める。
- ⑥ 固まった⑤の上に、残った④を半分、②も半分の量を入れ、冷蔵庫で固める。
- ⑦ 固まった⑥に、残った④と②を全部入れ、冷蔵庫で固める(一度に全部入れると野菜が浮きあがるので、面倒でも 3 回くらいに分けて固めた方が出来上がりがきれい)。
- ⑧ 固まった⑦の器を逆さにして、少し大きめのお皿に出す(⑦の器の表面をぬるま湯で温めると、ゼリーが器から離れ、形も壊れにくい)。

※ニンジン、インゲン、キノコ、キュウリなど、季節の野菜を使うのも楽しい。

硬い野菜は加熱して、柔らかくして使う。



《編集後記》

- ・ウクライナ ロシア戦争 もう止めて 良い友人は 殺し合いせず
我が国は 平和憲法 誇りとす ムヒカ(*)のように 欲得捨てて (T.H)
(*「世界一貧しい大統領」として有名な元ウルグアイ大統領ホセ・ムヒカ氏)
- ・S さんのインタビューの帰りの地下鉄は、黄電でした。黄電は、名古屋市営交通が開業 100 周年を記念した当時の黄色い車両を再現したもの。東山線と名城線・名港線に一編成しかなく、乗れたのはすごい確率で、何だかホンワカした気持ちになりました。(T.S)
- ・今号は、8・9 月号ということで、「戦争」の話題が多くなりました。そして、私たちが生きている今、過去の「戦争」ではなく、まさに今は「戦争」の時代なのだと、否応なく毎日思い知らされます。痛みを心の中で受け止めて、どう行動するのか、自分に、一人ひとりに突きつけられています。(T.K)